

NSTニュース100号記念

2008年より毎月発行していますNSTニュースが、今月で100号を迎えました。今月は、長年当院のNSTを温かく見守っていただいていますNSTチェアマンの林副院長、昨年度よりNSTディレクターとして回診、委員会などに携わっていただいている山本先生に対談をお願いし、当院のNSTについて思いを語っていただきました。



先生方がNSTに関わって感じたこと

林先生:最初の始まりは、前の院長からNSTをやれと言われて、当時は全然何もわからないころからの立ち上げだった。

理論的にはわかってはいたけれど、じゃあ具体的にはどうするか、あとはノウハウとしてはやってみないとわからないことが多かったという思い出がある。

一番苦労したのは最初のマニュアル・規約を作るところだった。当時はまだ情報が少なく、どこかで作ったものを真似たりインターネットで拾ったりした。

いずれにしても、形になって時が経過した今の理想として思うのは、患者さんの栄養管理への変わらない思いと、もう一つの側面として感じるのは、スタッフのレベルアップの必要性とそれがチームワークに寄与できることが大きいと感じた。



山本先生:私自身、NSTに関わるようになってちょうど1年経ちました。その前までは、まったくNSTというか、チーム医療や栄養管理に積極的にかかわってきた経験は全くなくきました。大学卒業してずいぶん経過しますが、栄養サポートとは、まだまだこれからの分野なのかなと感じています。

やってきて、主治医とそれにかかわるスタッフだけではないチームとしてかかわっていくことが、客観的に栄養状態とかが評価できることで、患者さんの予後や治療に関わっていくことができることが良いと感じた所と、毎日見ている主治医とその関わるスタッフでないといけない所が、栄養とデータだけでは測れないことがあると実感しました。



林先生:当院は平均在院日数が非常に短いということもあり、どうしてもその科の治療優先で栄養が後からついていくという形になっている。どう先に栄養のアプローチができるかという体制が本来が一番であって、一人の患者さんを中心として、NSTの立ち位置というのももう少し変わってくるといいかなと思う。



当院のNSTスタッフに望むこと

林先生:せっかくかかわるので、すべてのスタッフがある程度の知識のレベルを持ってくれるようにしてほしいと考えている。

栄養学に関するレベルアップ、そして、お互いの職種を認め合い、専門性を認め合う。各セクションのスタッフたちが専門の知識をどのように融合させるかというところが、チーム医療の根本であり、利点なのだから。

山本先生:基本的な栄養学をみんなで共有できるという意識を持ったうえで、専門性を発揮できることが必要と感じます。そしてお互いの仕事を認めることが何よりも大事と感じています。

林先生:ただ、チーム医療といっても、基本的な栄養の部分はみんなで共有しないとイケない。そこに自分たちの専門性が乗ってくるぐらいアピールし提言できるようにしておかないと、均一な質のいいNSTができない。栄養学に関する勉強が必要である。そういった意味でいろんなスタッフと情報交換をしないとイケない。スタッフたちは自分の専門性を勉強しないとイケない。

患者さんを通して、勉強したことが患者さんの、自分の身になっていっていると実感することを学んでほしい。

山本先生: NSTだけじゃなく、病院全体で栄養管理をきちんとしたうえで治療を提供できるといいなと思います。そのためには、関係するスタッフの意識と知識を高めて、それを維持をしていくよう積み重ねて言って欲しいと感じます。

林先生:提案できるくらいスキルがないとイケないということだね。



これからの当院NSTの展望・希望

林先生 :あとは院外との連携を今後は視野に入れて院外へのNSTの活動のアピールをして欲しい。

平均在院日数が短くなり、2週間切って退院している中において、アセスメントの段階で栄養介入ができれば、手術の待機している間に院外で栄養状態が改善できるのではないかと感じる。そのような院外での改善につながれば、治癒率も上りし、入院期間も短くなり、平均在院日数の短縮にも繋がる。いかに早く帰る準備ができるかが鍵である。そのためには院外のスタッフと蜜に連携ができないと絶対できないことではないか。今後は院外連携につなげていきたいと考えている。

ずっとやってきて実感するのは、施設に入った人は病院と施設を行ったり来たりしている。病院でやってきたことができない、または逆のこともあるよね、向こうでできたことがこちらでできないことも。食べてた人が食べられなくなって胃瘻になる、逆に胃瘻作って帰った人が向こうで食べられるようになって胃瘻を抜去することもままある。どこにいても同じことができるようにしていきたい。

山本先生:何かが起こって急に入院となっても、患者さん自身がかなりの低栄養状態から始まることや多いことは、入院時に痛感します。

栄養状態がなかなか良くならず、入院の原因になった疾患もよくならずで。でも、よくなり始めると、一気に良くなっていくのも実感します。実施、体感していくことがいかに必要かを認識できるように活動していきたいです。

林先生:院外スタッフの、うちと同じような介入ができることを増やしていくことが必要。そのためには、今までやっているNSTの院外との交流会等をどんどん進めて病院の関連する施設から、始めていくことを望んでいるので、頑張ってください。

林先生、山本先生、ありがとうございました！
終始和やかな雰囲気、先生方の思いを熱く語っていただきました。NSTスタッフ、先生の思いを共有し、協力して活動していきたいと思えます！



お知らせ

第1回 院内NST研修会 **6月8日(水)** 南館1階講堂
「**栄養リスクの早期発見、栄養評価**」 17:30~18:30

どの職種でも参加可能です。興味のある方ならどなたでもご参加下さい！！